

2017年5月15日

各 位

オリックス株式会社
(コード番号：8591)

2017年3月期 当期純利益は前期比5%増の2,732億円 8期連続で増益達成し、過去最高益を更新

2017年3月期（2016年4月1日～2017年3月31日）の米国会計基準連結決算において、営業収益は前期比13.1%増の2兆6,787億円、税引前当期純利益は同8.6%増の4,250億円、当期純利益は同5.0%増の2,732億円となりました。当期純利益は8期連続で増益となり、2016年3月期に引き続き、3期連続で過去最高益を更新しました。

また、1株当たり年間配当金は、前期の45.75円から52.25円へと6.50円（前期比14.2%増）増配します。

■ 主な経営指標の推移

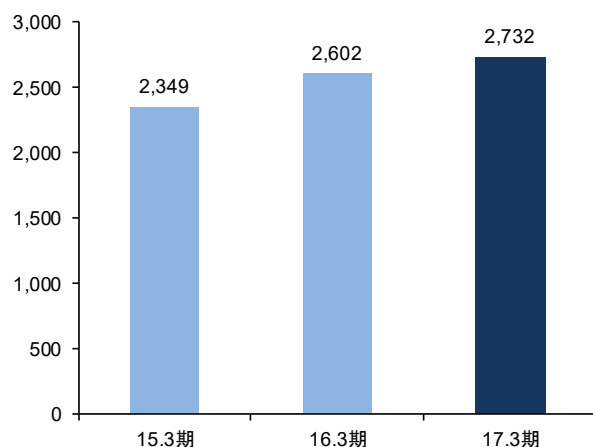
| | 2016年3月期 | 2017年3月期 | 増減率 |
|------------------|----------|----------|-------|
| 営業収益 | 23,692億円 | 26,787億円 | 13.1% |
| 税引前当期純利益 | 3,913億円 | 4,250億円 | 8.6% |
| 当期純利益 ※ | 2,602億円 | 2,732億円 | 5.0% |
| 株主資本当期純利益率（ROE）※ | 11.7% | 11.3% | — |

| | 2016年3月期 | 2017年3月期 | 増減率 |
|----------|-----------|-----------|-------|
| 総資産 | 109,929億円 | 112,319億円 | 2.2% |
| セグメント資産 | 89,724億円 | 89,569億円 | ▲0.2% |
| 株主資本 ※ | 23,104億円 | 25,077億円 | 8.5% |
| 株主資本比率 ※ | 21.0% | 22.3% | — |

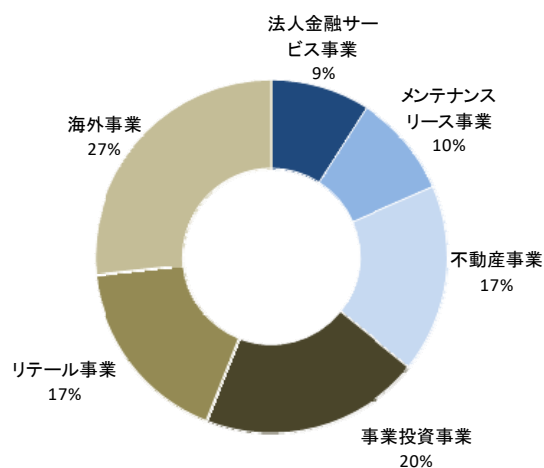
※「当期純利益」「株主資本」は、決算短信などの財務諸表に記載している「当社株主に帰属する当期純利益」「当社株主資本合計」を記載しています。「株主資本当期純利益率(ROE)」「株主資本比率」は、当該株主資本合計を用いて算出しています。

『当期純利益の推移』

(単位：億円)



『17/3期のセグメント利益内訳』



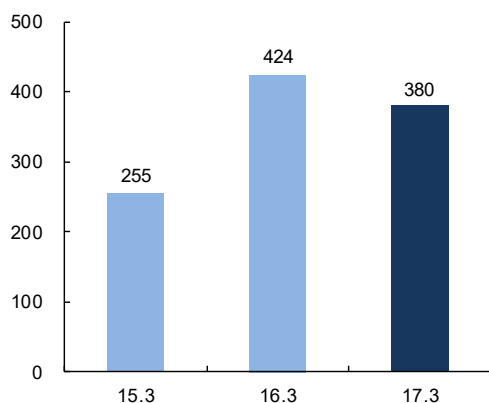
■ 各セグメントの業績概要（2016年4月1日～2017年3月31日）

当期は、好調な不動産市況を捉えた不動産事業部門、プライベートエクイティ投資先の売却益と環境エネルギー事業のサービス収入増加が寄与した事業投資事業部門、生命保険の新規契約が増加したリテール事業部門の3部門が増益に大きく貢献しました。

【法人金融サービス事業部門】

融資、リース、各種手数料ビジネス

<セグメント利益> (単位：億円)

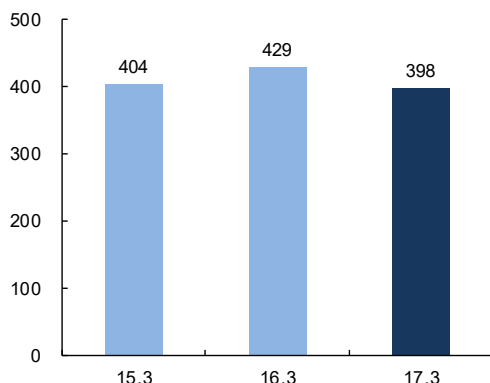


- ・金融収益が低下傾向にある中、弥生や環境エネルギー事業のサービス収入が堅調に増加。
- ・前期は大口出資先の株式売却益を計上。
- ・セグメント利益は、前期比 10%減の 380 億円を計上。

【メンテナンスリース事業部門】

自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、電子計測器・IT関連機器などのレンタルおよびリース

<セグメント利益> (単位：億円)

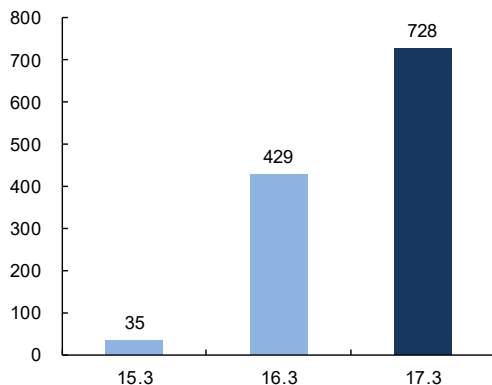


- ・自動車事業のリース資産は順調に拡大。
- ・前期と比較し、中古車売却益およびオペレーティング・リース損益が減少。
- ・セグメント利益は、前期比 7%減の 398 億円を計上。

【不動産事業部門】

不動産開発・賃貸、施設運営、不動産投資法人 (REIT) の資産運用・管理、不動産投資顧問

<セグメント利益> (単位：億円)

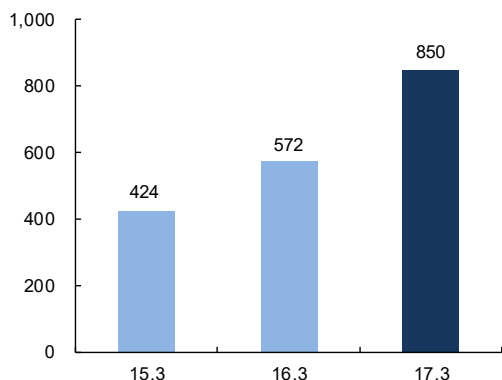


- ・好調な不動産市況を背景に、不動産売却益が増加。
- ・物流施設や運営資産を中心に、厳選投資を実施。
- ・セグメント利益は、前期比 70%増の 728 億円を計上。

【事業投資事業部門】

環境エネルギー、プリンシパル・インベストメント、サービサー（債権回収）、コンセッション

<セグメント利益> (単位：億円)

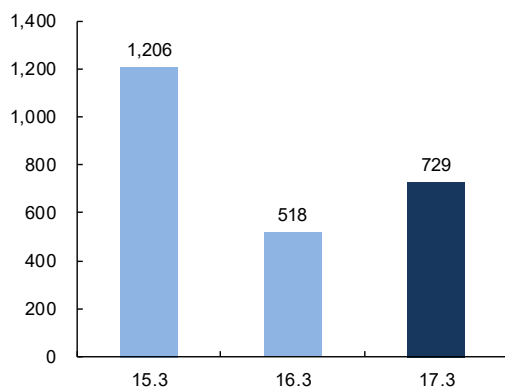


- ・投資先からの収益や投資先の株式売却益が増加。
- ・コンセッション事業からの利益が着実に貢献。
- ・メガソーラーの新規稼働や電力売却益の増加など、環境エネルギー事業の利益が順調に増加。
- ・セグメント利益は、前期比 49%増の 850 億円を計上。

【リテール事業部門】

生命保険、銀行、カードローン

<セグメント利益> (単位：億円)



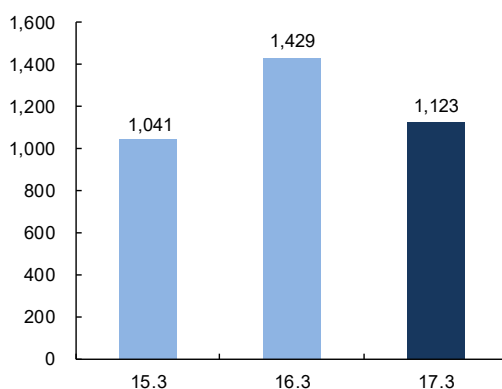
- ・生命保険の新規契約件数の増加と運用益の増加により、保険収益が伸長。
- ・セグメント利益は、前期比 41%増の 729 億円を計上。

※2015年3月期は、マネックスグループの株式売却益（約 150 億円）およびハートフォード生命買収に伴うバーゲン・パーチェス益（約 360 億円）を計上。

【海外事業部門】

リース、融資、債券投資、アセットマネジメント、船舶・航空機関連

<セグメント利益> (単位：億円)

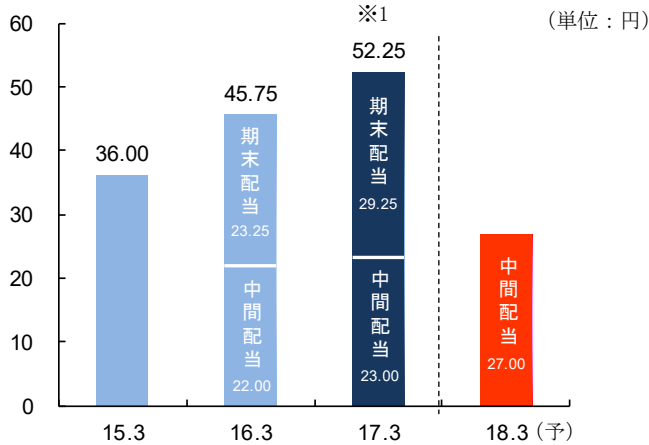


- ・当期は米州子会社の株式売却益を計上するなど、着実に収益を積み上げ。
- ・アジア、米州および航空機事業の資産が増加。
- ・前期は Houlihan Lokey, Inc. の株式売却益と評価益（約 400 億円）を計上。
- ・セグメント利益は、為替換算の影響もあり前期比 21%減の 1,123 億円を計上。

■ 当期の配当金および次期の配当予想について

利益成長を踏まえて、当期の1株当たり配当金（年間）は、前期の45.75円から6.50円増配し、前期比14.2%増の52.25円とします。

なお、次期（2018年3月期）の1株当たり中間配当金の予想額は、27.00円とします。



※1 2017年3月期の配当金額は、計算書類の法定監査を経て、2017年5月23日に開催される取締役会において正式に決定される予定です。

■ 2018年3月期の経営目標について

引き続き2015年5月に公表した「中期的な経営目標」を維持し、最終年度である2018年3月期は当期純利益3,000億円を目標とします。

【目標とする経営指標】

資本効率性と健全性を維持しながら、安定的な利益成長の実現を目指します。

| | |
|-------|-----------------------|
| 利益成長 | 2018年3月期当期純利益 3,000億円 |
| 資本効率性 | ROE11～12% |
| 健全性 | 格付A格維持 |

【中期的な方向性】

オリックスグループは、事業ポートフォリオの分散による事業展開を軸としながら、中期的な経営目標として「非金融事業の拡大」による継続的な利益成長を掲げています。

「非金融事業の拡大」に向けた取り組みとしては、“既存事業の成長” “重点分野への新規投資” という方針のもと、環境の変化に応じた新たな事業へ挑戦していきます。

“既存事業の成長” においては、強みと専門性をさらに深掘りし、国内では手数料ビジネスや自動車事業、不動産運営事業、生命保険事業などの拡大を進めるとともに、海外では自動車事業やその他非金融事業への多角化を推進します。

“重点分野への新規投資” においては、国内外での環境エネルギー事業およびプライベートエクイティ投資の推進、アジアのネットワークの拡充、アセットマネジメント事業のグローバル展開、コンセッション事業の拡大を重点分野と定め、継続的に実行します。

詳細は、当社ホームページにて掲載の決算短信および決算補足資料をご覧ください。

URL : <http://www.orix.co.jp/grp/ir/settlement/>

<本件に関するお問い合わせ先>

グループ広報部 橋本・松村 TEL : 03-3435-3167

■本プレスリリースに関する注意事項

本プレスリリースに掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみで全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会（SEC）に提出しております Form20-F による報告書の「リスク要因（Risk Factors）」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

なお、本プレスリリースは情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。